

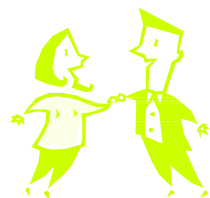
図書館で所蔵している詩の本をならべました。お気に入りの詩に再会したり、新しい詩との新しい出会いがあったりするといいいですね。

詩は、

『ポケット詩集』 『ポケット詩集Ⅱ』

田中和雄/編 童話屋

から引用しました。



作成：名古屋市西図書館
平成28年9月



心のどこかに
いつもある
詩

雨ニモマケズ 風ニモマケズ I was bornさ。
受身形だよ。それから酒屋をたたきおこしたの
だ 自分の住むところには 自分で表札を出す
にかぎる。いそがなくなっていんだよ 大人に
なってもどぎまぎしたっていんだな のだのだ
のだともそうなのだ それは断然そうなのだ

正しいことを言うときには 少しひかえめにするほ
うがいい わたしを束ねないで

おまえは歌うな うさぎに うまれて うれしい うさぎ ま
た春になってしまった 父さんはおまえに菖蒲の笛を聴かせよ
う もはや できあいの思想には寄りかかりたくない われは
草なり 伸びんとす きつぱりと冬が来た

本を読もう。

もっと本を読もう。

もっともっと本を読もう。

いつか、どこかでみかけた詩の言葉 なぜか、それからずっと心の中にある

生ましめんかな 生ましめんかな 己が命捨つ
とも 君死にたもうことなかれ 死んだ男の残し
たものは ひとりの妻とひとりの子ども 何が面
白くて駝鳥を飼うのだ。 自分の感受性くらい
自分で守れ 万有引力とは ひき合う孤独の力
である 山林に自由存す

太郎を眠らせ、太郎の屋根に雪ふりつむ。 女に二時間待た
されたからて 死んだ男がおるやろか ごらんないだいら
びなのように わたくしたちがならんですわったござのうえ
なつめにしまっておきたいほど いたいけな孫むすめがうまれ
た ビールには枝豆 カレーライスには福神漬け